

トレーシングレポートを介した薬学的支援の現状調査

今城 宏文¹, 久保田 賢治¹, 篠原 園枝¹, 小林 綾子¹, 柄沢 綾¹, 一瀬 康弘¹, 廣原 正宜², 串田 一樹²

¹アーク調剤薬局, ²昭和薬科大学

【目的】

近年、わが国では薬局薬剤師の業務はかかりつけ薬剤師機能をはじめ、健康サポート機能や高度薬学管理機能などさまざまな役割が求められている。調剤業務においても対物業務から対人業務へとシフトしている。薬局薬剤師が、地域のチーム医療の一員として処方支援を行える業務の一つとしてトレーシングレポートがある。今回当薬局においてトレーシングレポートの内容を調査したので報告する。

【方法】

長野県に所在する当グループ3店舗のトレーシングレポートを後ろ向きに調査

調査期間：2018年6月1日～11月15日

対象：長野県にある当薬局の長野柳原店、長野上松店、及びヨシダ薬局の3店舗

調査内容：トレーシングレポートの枚数、患者数、かかりつけ薬剤師の有無、トレーシングレポートの記載内容

【結果】

トレーシングレポートは19件であった。トレーシングレポートの内容(複数記載あり)は、薬剤中止・減量の提案12件、有害事象報告5件、薬剤変更・追加3件、検査提案1件、過量服用1件、残薬報告1件であった。記載内容例として、腎機能低下患者のカリウム値上昇に対して、ポリスチレンスルホン酸カルシウムの追加と併用しているACE阻害剤によるカリウム上昇の可能性を報告した。

【考察】

薬局薬剤師が患者の状況から薬学的支援を行うために、トレーシングレポートによる報告は有用であったと考える。薬局薬剤師が薬学的支援を行うために必要なことは、検査値の読み取り、患者の治療経過、各種ガイドライン・文献の確認、患者・医師とのコミュニケーション能力であると考えられる。現在、病院を中心にトレーシングレポートの活用が報告されているが、かかりつけ医と保険薬局の積極的な活用報告はまだ少ない。今後、薬局薬剤師がかかりつけ機能を発揮するためにも、薬学的支援を行うため、トレーシングレポートの活用は重要と考える。